令和8年度　江戸川区立本一色小学校　学校関係者評価報告書

学校教育目標	○考える子 ○やさしい子 ○たくましい子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○基礎・基本の定着を確実にし、確かな学力を身に付けられる学校。 ○教師一人一人がやりがいを感じ、情熱をもって教育活動を実践できる学校。 ○家庭・地域と協力し、心豊かな児童が育つ学校。 ○学校や地域の歴史、環境を大切にし、故郷として誇りがもてる学校。
前年度までの本校の現状	成果：○自分の考えをもって学習に取り組む児童が増えた。 ○巡回指導員やSC、SSWとの連携により、児童の支援について組織的に対応することができた。 ○異学年交流による友達を思いやる心の醸成が図られた。	課題	○自分の考えを表現しようとする意欲の向上を図る。 ○支援を要する児童の支援のさらなる充実を図る。 ○楽しみながら体力向上に向けた活動ができるよう取り組み方法を工夫する。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	「中間」自己（学校）評価		「中間」学校関係者評価		「年間評価」自己（学校）評価		「年間」学校関係者評価		次年度に向けた改善案
				評語	コメント	評語	コメント	評語	コメント	評語	コメント	
学力の向上	○基礎・基本の徹底、習熟度・個に応じた指導	・学校と民間事業者による放課後補習教室（EDOスク）の実施 ・スタディウィークをはじめとするドリルパークの活用	・EDOスクへの登録率95%以上 ・ドリルパークの活用率90%以上									
	○家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・週に１回15分の朝学習（よむYOMUワークシート等）の実施	・児童へのアンケート結果で、90%以上の児童が学習意欲や読解力が高まったと回答									
	○読書科の更なる充実	・探究的学習を全学年１単元以上実施	・教科横断的な授業を１単元以上実施									
体力の向上	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施	・学期に１回のなわ跳びウィークの設定	・原則、全校児童参加									
		・休み時間を活用した運動遊び（運動委員会主体）の設定	・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が休み時間にすすんで外遊びをしていると回答									
		・「投力を養うコーナー」設置など、自発的に運動に取り組む場の設定	・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が休み時間にすすんで外遊びをしていると回答									
共生社会の実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、日本語指導員や日本語教室との連携	・毎月1回、通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを実施									
	○ほっとルームの活用促進	・エンカレッジルーム（ほっとルーム）の保護者への理解啓発	・年度初め、年度終わりの全学年の保護者会でエンカレッジルーム（ほっとルーム）を紹介									
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施充実	・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施	・各学期1回以上の実施									
不登校・いじめ対応の充実	○L－Gateの活用	L－Gateの活用により児童の心理状態を把握	・毎日の記録の実施と確認を毎日行う									
	○豊かな心の育成	・自尊感情を大切にした生活指導・道徳学習の充実	・児童が集団に対して貢献できる場を設定し、自己有用感を育てる ・全学級道徳授業公開を行う									
	○教育相談の強化	・SC、SSWとの連携強化	・不登校児童とのSC、SSW連携率100% ・学期に1回以上の不登校対策委員会を実施									
地域社会に開かれた学校の実現	○学校（園）ホームページの充実等	・学校ホームページの更新	・原則、毎日更新を行う									
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・年3回の土曜公開や各行事後にアンケートを実施									
特色ある教育の展開	○働き方改革の推進	・月１回の定時退勤日の設定	・平均退勤時刻を19時までに収める									
	○教員研修の実施	・教員の組織的な育成	・全教員年３回以上の授業公開 ・年に10回程度のOJTの活用									
	○異学年交流による思いやりの心の醸成	・異学年集団「あすなろ班」活動を年１０回以上実施	・児童へのアンケート結果で、80%以上が人が困っているときは、すすんで助けていると回答									